

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472800883
法人名	特定非営利活動法人 グループホーム滝原
事業所名	特定非営利活動法人 グループホーム滝原
所在地 (電話番号)	度会郡大紀町滝原830番地の1 (電話) 0598-84-8088
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21年 3月 27日(金)

【情報提供票より】(平成 21年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12人, 非常勤 6人, 常勤換算	14.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000円 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	1 名	要介護2	10 名			
要介護3	5 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	87.1 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大台厚生病院 虹の丘病院 ひまわり歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は滝原神宮の近く、国道42号線から少し入ったところにあり、周辺には人家が少なく、静かな環境に囲まれている。ゆったりとした敷地に、東棟、西棟の2つのユニットの建物があり、回廊方式で結ばれている。部屋は大変明るく清潔で、家庭的な雰囲気の中で利用者が職員と共に楽しく穏やかに過ごしている様子がうかがえる。そうした暮らしぶりや事業所の行事等が、きれいにカラープリントされた「事業所通信」(年4回発行)で家族等にも伝えられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の課題について、「事業所通信」の発行や防災マニュアルを作る等の改善の取り組みがされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	施設長、管理者、ケアマネージャーで自己評価を行なっている。職員全員が参加して自己評価を行なっていく工夫と努力が期待される。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、町担当職員、地域包括支援センター職員、区長、老人会役員、民生委員、利用者家族代表で構成し、3ヶ月に1回開催している。その時々での現状報告や課題について話し合い、運営に生かすようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年4回「事業所通信」を発行し、事業所の行事や利用者の暮らしぶりを伝えている。面会の少ない家族には、月1度は電話や手紙、写真を送るようにしている。家族の代表が運営推進会議に参加し、事業所の運営に家族の意見が反映できるようにしている。面会時にも、意見や苦情を聞き、その都度対応するようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、町を美しくする運動や地域の防災訓練に参加している。敬老会等に参加し、地域の人達との交流を図っている。又、地元の中学生の職場体験学習の受け入れをしている。地元の商工会婦人部からのタオルの差し入れやボランティアによる踊りや大正琴の演奏等もしてもらっている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域との共生、自立、入居者・家族とのコミュニケーション、人格の尊重と平等、優しい言葉と柔和な態度、一人ひとりの気持をくんだ支え」を基本理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールに掲示すると共に名刺の裏面にも記載し、又、職員会議での話し合い等を行いながら理念を職員間で共有し、実践に取り組むよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、現在は職員のみ参加だが、町を美しくする運動や地域の防災訓練に参加している。敬老会等にも参加し、地域の人達との交流を図っている。又、地元の中学生の職場体験学習の受け入れをしている。地元商工会婦人部からのタオル等の差し入れやボランティアによる踊りや大正琴の演奏等してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長、管理者、ケアマネージャーで自己評価を行っている。自己評価、外部評価の結果を活かし、「事業所通信」の発行を始める等いくつかの改善に取り組んでいる。	○	評価を活かしていくためには、現場の職員の参加も重要であり、評価を職員全員参加で行なっていく工夫と努力を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、町担当職員、地域包括支援センター職員、区長、老人会役員、民生委員、利用者家族代表で構成し、3ヶ月に1回開催している。その時々での現状報告や課題について話し合い運営に活かすようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	本年度、町が主催した地域の同業者の交流会が開催された。町の担当職員が年に何回かは訪問してくれ、随時、役場や地域包括支援センターへも訪問し情報交換に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回「事業所通信」を発行し、事業所の行事や利用者の暮らしぶりを伝えている。面会時に、その都度、生活状況を報告すると共に、面会の少ない家族には、月に1度は電話や手紙、写真を送るようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の代表が運営推進会議に参加し、事業所の運営に家族等の意見が反映できるようにしている。面会時にも、意見、苦情を聞き、その都度対応するようにしている。又、県社協の苦情や相談事業のパンフレットを窓口においている。	○	国保連合会や町担当課等の事業所外の相談、苦情窓口について、利用者や家族等に説明すると共に、事業所への掲示や重要事項説明書へ記載する等の措置をとられることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本年度の職員移動は、無かった。ユニット間の職員移動を考えているが、その際には、利用者にはダメージが起らないよう配慮した対応をする意向である。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度、実践者講習会に3名参加した。研修会には、職員に順番に参加してもらい資質の向上に努めている。介護福祉士等の資格取得にあたっては、勤務時間の配慮を行なう等の支援を行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に参加し、同業者との交流を図っている。本年度、町に要請し、地域のグループホームの交流会を開催してもらったが、共通の課題を考えていくため、今後もこうした交流が続けて行なえればとよいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に見学に来てもらったり、体験入所をしてもらい、本人が事業所や職員に徐々に馴染んでもらってから、利用してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩から学ぶ姿勢を持ちながら、利用者との関係づくりをしている。動揺や折り紙を教えてもらったり学ぶことも多く、共に生活する関係を築くよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から思いや希望をよく聞き、又、日々の生活の中での会話や態度から把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意向をよく聴き、話し合い、又職員の意見も取り入れながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化に即した見直しを行なうと共に、3ヶ月に1回定期的に見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援、理髪支援、病院への見舞いなど可能な限り本人、家族の要望に応じ支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院支援をしている。事業所への往診もしてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が進んできた時点で家族や主治医と相談し、他施設や病院などを紹介している。看取り介護は今後の課題としている。	○	職員の合意や医療機関との連携の確保等を図りながら、利用者、家族の要望に副える重度化や終末期における体制の確立を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	上からものを言わない等利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉掛けや対応に努めている		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課は設定しているが、起床等においても無理に起こしたりせず、一人ひとりの生活のペースに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭いて貰ったり、後片付けをしてもらったり利用者の能力に応じたことをしてもらうようにし、食事は職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日出来るようにしており、午後(13時から16時)の本人の希望の時間に入浴している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップ賭け、中庭の草引き、洗濯たたみ等一人ひとりの力を活かした役割を果たしてもらうようにしている。又、花見、紅葉狩り、ボランティアによる踊り、太鼓、大正琴の演奏等を定期的に行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者一人ひとりの希望を確認のうえ、散歩にはよく出掛け、時々買物支援も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室に鍵は掛けず、常に利用者に見配りしながら、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力、指導を得て消防、避難訓練を行なっている。本年度、防災マニュアルを作成した。	○	災害時に利用者が昼夜を問わず安全に避難できるために、特に職員が手薄な夜間を想定した避難訓練の実施や災害時における地域の人々の協力体制を作っていく取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が目目わかるよう、バイタル表と共に一覧表にして記録している。おやつや入浴の時に水分補給を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂は明るく、季節感を出すため季節の花を生けたり、雛人形等を飾っている。トイレや浴室は清潔に保たれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、明るく清潔で、使い慣れた家具、夫の写真、趣味の人形等、本人の好みの物が置かれている。		